
酔っぱらい(パート2)

むしん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

酔っぱらい（パート2）

【Nコード】

N1181E

【作者名】

むしん

【あらすじ】

またまた、酔っぱらいが電車でのりすくす

第2話

酔っぱらいは困ったものだ

あるとき名鉄電車に乗った

降りる駅は次の駅

所要時間は約2分

いつもは立っているところだが

たまたま、目の前の席が空いていた

これが悲劇の始まりだった

構内アナウンスがかすかに聞こえる

「犬山く、犬山く、電車終点です」の声

またやってしまった

慌てて電車を降りると反対ホームに電車がある

まだ最終でなかった

ラッキーだ

電車の行き先も確認せず飛び乗る

やれやれだ

安心したのもつかの間

「おゝいまだ人がいるぞ」の声

なんだ、なんだ

状況が理解できない

「お客さん早く出てください」

「もう閉めますよ」

またやってしまった、最低

駅員に

「ここ何処ですか」と確認すると岐阜だという

何で岐阜、理解できない

出口を探すが見当たらない

出口らしきところは全てシャッターがしまっている

閉じ込められた

途方にくれていると

駅員がこちらの扉から出てくださいという

やっと脱出

これからどうしよう

頭が回転しない

選択肢は二つに一つ

岐阜に泊まるか、タクシーで帰るかだ

名古屋までタクシー代いくらだろう

見当もつかない

結局ビジネスホテルで宿泊

一先ず妻に連絡すると

「また、やったのね」の一言

その後妻から、飲んだらタクシーで帰るように言われた

でも、もったいなくてタクシーでなんて帰れないよね

これからも、まだまだ酔っぱらいシリーズは続きます。

楽しみにしてくださいね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1181e/>

酔っぱらい（パート2）

2010年12月3日14時33分発行